



入退院支援室・PFMの紹介

及び第39回学術集会に参加して



入退院支援室 PFM副師長 有川

PFMとはPatient Flow Managementの略語で、当部署の名称として使用しています。入退院支援の推進と合理的な病床管理を目的に、2017年に開設されました。入院前の外来段階から介入することで、円滑な入院医療の提供や、安心して療養生活を送れるように支援しています。当院は、2023年4月より地域包括ケア病棟を休棟し、212床から183床にサイズダウンしました。減床した中で急性期治療を必要とする患者を受け入れていくためには、退院・転院による出口管理は必要不可欠です。入退院に係る問題の早期抽出と解決に向けて、多職種でのチームアプローチができるように連携・協働しています。

また、看護師間の連携や継続看護についても取り組み、10月4日に行われた第39回市民病院学術発表会では、『入退院支援に係る看護計画充実への取り組み』と題し、発表しました。現在、スタッフは4名所属しており、病棟担当制にしています。退院調整カンファレンスの開催や入退院の進捗状況などを把握し、病床管理を担当する私と情報共有・今後の方向性の確認を行っています。入退院支援を通して、業務改善（外来・病棟の入院業務のタスクシフトによる負担軽減）や、経営参画（病床コントロールによる安定した病院経営への寄与）など、様々な場面で尽力しております！

最後になりますが、当部署が引っ越しをしたことをご存じでしょうか？今年の7月から、3階西側（旧地域包括ケア病棟）のナースステーション内に移動しました！患者情報を扱っているため、外から見えないように入り口のドアは常時閉めています。 「いつでも、誰でもWelcome！」入退院支援や看護管理に関する書籍を多数揃えてありますので、気軽に入ってきてください★

<セル看護提供方式についての紹介>

認定看護管理者 副看護部長 久留須

看護部では2020年からセル看護提供方式を導入しています。セル看護提供方式のねらいは「患者や看護師にとって利益にならない“ムダ”を省き、ケアの受け手の価値を最大化すること」とマニュアルに記してあります。動線のムダ、記録のムダ、配置のムダを省くために、改善活動（カイゼン）を行う事が求められています。4年間で受け持ち患者の均等化、患者の側にいる看護実践に取り組み、残業時間の減少やカンファレンスの充実などの効果もありました。しかしまだまだカイゼンできることは多くあると思っています。部署のリーダー（管理職や部署でのリーダー的役割を担う方々）は「カイゼン」を強く意識しリーダーシップ図り、「カイゼン」の推進を目指し、マニュアルを今一度確認のうえ、セル看護提供方式のねらいが達成することが今後の課題と考えています。

第6回セル看護推進研究会に参加して（9/20～21）主催：飯塚病院 看護部



手術室 看護師

9月にセル看護推進研究会に参加しました。セル看護のねらいは「患者や看護師にとって利益にならないムダを省いて、ケアの受け手の価値を最大限にする」ことです。当院では看護業務は増える一方で、ムダを削減することなくセル看護を実践しようとしているように感じました。必要なのかムダなのかの判断は難しいですが、思いきって削減することも必要だと思いました。

回復期リハビリテーション病棟病棟 勝山

今回の研修で業務のムダを省き、ベッドサイドで見える形で患者の側にいる、関心を寄せることの本質を再確認できました。当病棟は、認知症の患者も多く、離床センサーなどナースコールが鳴りやまない現状があります。ベッドサイドで些細なことでも患者の求めていることや変化を感じ取り、ナースコールが鳴る前に介入できる体制を構築していきたいと思います。



～教育研修後アンケートより抜粋～

ラダーⅢ研修「退院支援」(10/2・10/22)

講師：びっくすまいる訪問看護ステーション 代表取締役 柳田 千草氏



入院していた患者の中にも、訪問看護を利用される患者がいます。退院した後、患者がどのように過ごしているのか、思い出すことがあります。住み慣れた場所で自分らしく生活できるよう、退院してからの生活を入院中からイメージして、クリアしなければならない問題を解決していく必要があると改めて感じました。ケアマネージャーや訪問看護ステーションの看護師など、多職種スタッフと連携を取りながら、退院後の患者と家族が満足した生活ができるよう、日々看護していきたいと思えます。



ラダーⅣ研修「意思決定支援」(10/10)

講師：救急看護認定看護師 4階西病棟師長 平

これまでの意思決定支援の関わりの中で、本人の意思が大切と思っはいても、どこかで「認知症があるから」「せん妄などの不穏があるから」と思い、家族に判断を委ねることもありました。しかし、本人に決める力がないと勝手に判断せず、本人の意思を尊重し、本人自らが意思決定できるよう、あらゆる支援を尽くすことが大切であることを学びました。



急変時シミュレーションを実施して

4階西病棟 竹原

4西病棟では、病棟内での急変、CPR対応の件数も少なく、経験が浅いスタッフは現場で急変対応に直面した事が無く、中堅看護師でも自信が無いとの声が多数ありました。経験年数を問わずスタッフ全員がCPR状況下で適切に対応ができ、それぞれの役割が認識できる事を目的として、前期は2回シミュレーションを行いました。実践する事でイメージが沸き、一人ひとりの意識向上に繋がったと思います。日頃から急変が起きるかもしれないことを念頭に置き、たとえ急変を目の前にしても想定内の行動ができるように、スタッフ一人ひとりの意識づけや動機づけに向けた効果的なシミュレーションになればと思います。





看護協会主催：認定看護管理者教育課程 ファーストレベル研修を受講して

外来主任 福山

研修途中、台風に阻まれ休講や看護協会が被災するといった思わぬ事態になりましたが、修了を迎えることができました。グループワークで様々な病院の受講生と交流するにつれ、それぞれの管理者としての悩みや講義で学んだことを活かし、解決策を模索するなど、とても貴重な体験になりました。講義の中で看護管理は、“管理者だけのものではない“という言葉が心に残りました。それは個々が協力し働きやすく、それによって質の良い看護が患者に提供されていくという思いが込められていると思います。また、自分の仕事に誇りをもって臨んでいるかということも考えさせられました。看護スタッフ一人ひとりが誇りをもってこの仕事が続けられるように、自分の役割を意識して学びを現場に活かしていきたいと思います。

3階病棟主任 上城

ファーストレベルは認定看護管理者教育の始めの段階になります。鹿児島県内より90名以上の参加があり、師長や副師長が参加している施設もありました。私は主任2年目で参加し、管理者としての知識の浅さを痛感しながら多くの学びがありました。グループワークで、他の施設の現状や考え方を話し合う事ができ、とても充実した20日間でした。今回の研修で、病院のため、病棟スタッフの出来る事を師長と共に考え、スタッフと一緒に行動をしようと思います。

4階西病棟主任 古菌

今回、認定看護管理者教育課程ファーストレベルに20日間参加しました。鹿児島県内より約90名の参加があり、他施設の看護師長や副師長と意見交換や演習の中で、情報交換を行うことができました。看護管理とは何かを考えさせられる研修であり、得た知識を師長と連携し、病棟スタッフと病棟運営に活かしていきたいと思います。

Aラインの勉強会を実施して

HCU病棟

HCU病棟では、2019年開棟当初より、個々の看護レベルアップを目的とした医療機器の使用手順・操作方法など、統一した看護を目指し年間を通し勉強会を開催してきました。

5年目に突入の今年度は、これまでスタッフが獲得してきた看護を、他病棟スタッフへ向けて情報発信しようと考え、項目を選定しました。第1回目は、Aラインについて看護は勿論、トランスデューサーの準備からセッティングまで、実践しながら実施しました。参加者からは、「怖いと思う気持ちが緩和した」「準備から一連の流れが学べた」「必要性について改めて学習できた」などの意見がありました。

次回11/25は、IABPの管理と実施中の看護について開催予定です。是非、参加してください。





24'「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修を受講して

3階病棟師長 満園

診療報酬改定に伴う重症度・医療・看護必要度の変更について学ぶことが出来ました。看護必要度による人員配置、政策、現在の動向により、今後予測される医療の動向についても理解出来ました。演習では繰り返し実施し評価適正度をあげることが出来ました。今後、学んだことを院内スタッフに伝達研修を実施し、学んだことを病院全体に広げ、皆が正しく評価し、記録の不備がないように病棟でも引き続き教育指導していきたいと思います。



職場体験

教育委員長 HCU副師長 松下

中学生、高校生が職場体験へ来てくれました。

看護師になるまでの過程や看護の仕事について説明を行い、実際に、体温・脈拍・血圧測定を実践し、呼吸音・心音の聴取を体験しました。感染管理認定看護師による感染予防について講義をしてもらい、グリッターバッグを用いて、手洗いが十分にできているか見てもらう機会を作りました。

病棟では、患者への配膳・下膳、検査への案内、車いす移乗、清潔ケアを見学や看護師と一緒にしてもらいました。患者・家族との関わり、他職種との関わりを実際に見ることで、看護師の仕事へ興味を深め、「職業観」「勤労観」を持つことへつながったのではないのでしょうか。

今回の体験を通して、自己の職業に対する意識を高めることが出来たら幸いです。

(看護師の仕事)



(車いす移送体験)



(血圧測定)



感染予防(手洗い)



(グリッターバッグで確認)



(食事の配膳・下膳)



(看護体験)

<編集後記>

朝晩は寒さを感じますが、まだまだ暑い日が続きます。体調管理に気をつけ、年越しまで残り1カ月、気を引き締めていきましょう！！ 轟原

